

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 森の宮福祉会	代表者	石塚 克哉	法人・事業所の特徴	基本理念「笑顔・まごころ・ハーモニー」を念頭に寄り添う介護、支援を職員一同取り組んでいます。「通い」を中心に「訪問」「泊り」を組み合わせたサービス提供を行っています。音楽を取り入れたリハビリやレクリエーションにも力をいれています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 ハミングベル緑橋	管理者	小栗 健太		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	3人	1人	人	1人	1人	6人	人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	各項目に対して改善（目標）までの工程表を作成し、改善計画の優先順位や具体的な内容を常に意識し情報共有していく。	工程表の作成ができておらず、計画的に改善計画について取り組めていなかった。職員間の情報の共有は行えていた。	取り組みやすい事、難しい事があると思うが折角掲げた事への努力はして欲しい。 情報の共有をお願いしたい。	意識的に取り組めるようにフロアに掲示すると共にフロア会議の議題に上げ、定期的に見直しを行なっていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	運営推進会議の際に定期的に施設見学の間を設け環境改善に努め、地域の方が出入りしやすい事業所にしていく。	定期的な施設見学を行えていなかった。ボランティアの方を多く受け入れ地域の方が出入りしやすい事業所になっている。	招かれると何の違和感もなく入ってもらえる雰囲気があり環境面で不快に感じることはない。 施設見学の間はどうだったかわからない。	整理整頓や季節に応じた環境作りを心がけ、利用する方が落ち着いてもらえる雰囲気作りをしていく。
C. 事業所と地域のかかわり	引き続き積極的に地域行事に参加し防災訓練も地域の方と協働し行なう。また、地域の方の集いの場となるように地域向けのカフェや行事を行なっていく。	地域と方との取り組みや地域のイベントへの参加をしている。地域向けのカフェも実施し、関わりを持てるようにしている。	利用者が地域に出ていきやすい雰囲気がある。東中本地域では事業所のことを良く知っているが、他の校下ではどうなのか？	地域行事に参加し地域と協働した取り組みを引き続き行なっていく。また地域への外出の機会を増やして関わりを多く持つ。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	利用者以外のご近所の心配な方に事業所のかかわりはまだ少ないので気軽に相談できる場になるように地域に出向き交流を深めていく。	利用者以外のご近所の心配なあなたの関わりはなかった。相談があれば、対応できる環境づくりに努めた。	地域でのイベントに積極的に参加している。利用者が地域のスーパーに買い物に出かけていたりするので事業所の中に閉じ込めている印象はない。	それぞれの利用者の住む地域資源を整理し、必要時利用できるように働きかける。 それぞれの住む地域の方との情報共有も行なっていく。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	事業所の課題やその課題の改善点など気軽に話せる運営推進会議になるように話しやすい雰囲気作りをしていく。	映像などを用い、利用している時の表情がわかるようにしている。話しやすい雰囲気作りを意識して取り組んでいる。	映像等を使用し分かりやすく状況がイメージしやすい。苦情や事故についても報告し、改善点など検討できればいい。	運営推進会議で日頃の取り組みを報告し、改善点等の意見を頂き事業所の運営に反映していく。
F. 事業所の防災・災害対策	防災訓練だけではなく、地域の一員として防災対策の勉強会の開催を企画、実施していく。	年に2回防災訓練を行っている。防災対策の勉強会の企画、実施を行っていない。	施設の防災訓練に地域の方が参加しそれが関係の強化に繋がっている。地域の防災訓練にも参加してもらい、町会との連携も強化したい。	実際に災害が起きた場合の地域との連携のとり方を、地域での防災訓練に参加するなど確認していく。